

GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

PEACE BOAT
特別号
Special Number

北半球から南半球へ
新たな地球一周の船旅

グローバル ヴォヤージュ 特別号 2025年5月12日発行 編集発行人:井上 直 発行所:株式会社ジャパングレイス 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-32-13-2F TEL.03-5287-3081

南も北も、地球を丸々見る、
価値あるクルーズです



ジャパングレイス事務局長
(航海士元船長)

挟間 俊一

世界一周クルーズは、これまで西回りまたは東回りの航海が一般的でした。しかし、今回の Voyage 121 は航路変更により、地球の東西南北を巡る壮大な航海となります。アジア各港に寄港した後、南インド洋を横断してアフリカ大陸最南西端の喜望峰まで南下。その後、一気に北上しアイスランドの北極圏に到達します。さらに北大西洋を南下し、ニューヨークを経由した後、世界的に有名なパナマ運河を通過。南米ペルーに寄港後、南太平洋の絶海の孤島イースター島などを経由して日本に戻ります。

このような壮大な航海では、世界の海流やそれがもたらす天候、気温、さらには予想外の動物たちの生態系に触れる機会があり、多くの驚きと感動を経験していただけるでしょう。今回の航路は、地球一周4万キロをはるかに超え、私の推測では6万キロ近くに及ぶと思います。

移動しながら、北半球と南半球を一度に巡る航海を経験することは、船乗りにとっても非常に稀なことです。

ご乗船の皆さまには、旅の終わりに今クルーズの総航海距離を記載した「地球一周証明書」をお一人ずつお渡しいたします。およそ100日前に出帆した港へ戻る際には、人類の歴史の中でも限られた人しか経験できない、スケールの大きな大航海を成し遂げた喜びと誇りを感じていただけることでしょう。ぜひ、この素晴らしい船旅を共に楽しみましょう。本船で皆さまをお待ちしております。





多様性に富む新寄港地で味わう 未体験の感動

Voyage121における新たな航路では新寄港地が加わりました。
ポートエリザベスの野生動物との出会いや陽光降り注ぐカナリア諸島、アイスランドまで北上した後は
南米のカリブ海の楽園ジャマイカで音楽と陽気な文化に触れるなど多彩な体験が待っています。
インド洋から大西洋を抜け、
ヨーロッパや中南米を訪れる地球をぐるりと回る航海が、新鮮な感動をお届けします。



Cape Town

自然と都市が融合した魅力に富んだケープタウンの全景。

〔世界自然遺産〕 ケープ植物区 保護地域群



ケープ半島の自然を象徴する世界遺産。この地方に広がる独特の植生や、マラカイトサンバードなど希少な鳥類も見ることができる。



4: 歴史の重みと優美さを感じられる「市庁舎」。5: 活気あふれる港町「V&Aウォーターフロント」でショッピングとグルメを満喫。6: ワインのメッカとして知られる南アフリカはワイナリーも観光スポットの一つ。



ショッピングとグルメを楽しむなら
ヴィクトリア・ワフ・ショッピングセン
ターへ。地元の新鮮なシーフードや国
際色豊かな料理を堪能できるだけで
なく、歴史とアートが交差する博物
館も多くあります。また地元のワイ
ン文化に触れるなら、近郊のステレ
ンボッシュやフランシスホークのワイ
ナリー巡りを組み込むと、南アフリカの
新たな魅力を発見できます。
歴史に興味がある方は、アパルトヘ
イト博物館を訪れることで、この街が
歩んできた道のりに触れることがで
きます。自由
と平等を求め
た南アフリカ
の歴史が、映
像や展示物
を通してリア
ルに伝わって
きます。



ボルダーズ・ビーチで出会える愛らしい
ペンギンたち。



1: 喜望峰のサインボードはこの地に
到達した記念撮影にぴったりの名所。
2: 海と空が織りなす絶景を望める「喜
望峰展望台」。3: 遥かなる水平線と
ともに広がる喜望峰の雄大な風景。



アフリカ最南端で出会う、壮大な
景色と多様な文化「ケープタウン」
大西洋とインド洋に挟まれたケープタウンは、「世界で最も美しい都市」のひとつとして愛される、南アフリカ屈指の観光地です。ダイナミックなテーブルマウンテンやケープポイントの自然、歴史の薫りが漂う街並み、そして新鮮なシーフードやワインといった美食まで、多彩な魅力で訪れる人々を惹きつけます。



南アフリカ共和国

ケープタウンは、歴史的な街並みと
雄大な自然が絶妙に融合した都市で
す。街の象徴である「テーブルマウン
テン」を満喫するには、ロープウェイで山
頂に向かい、雄大なパノラマを楽しみ
ながら、大西洋や街並みを一望しま
しょう。隣接するライオンズヘッドで
は、山をハイキングする観光コースも
あります。夕暮れどきは特に美しい
景色を堪能できます。

自然愛好家であれば必見なのが
「ケープ植物区保護地域群」。ユネスコ
世界遺産に登録されており、この地域
でしか見られない多彩な植物が生息し
ています。ここから南下すると、アフリ
カ大陸の最南西端「喜望峰」が現れま
す。切り立つ崖と広がる海景は、訪れる
人々を圧倒します。途中の道で、ボル
ダーズ・ビーチの可愛らしいペンギンコ
ロニーに立ち寄り、野生のケープペンギンに
出会う感動も味わうことができます。

市内観光では中心部にある市庁舎
がひととき目を引きますが、周辺に
も荘厳な建築や広場があり、街の歴
史と文化を感じるには最適なスポッ
トです。その隣接地にはネルソンマン
デラが解放後に演説を行った歴史的
な広場もあります。ここから少し歩
くと、カラフルな建物が並ぶボカー
プ地区が広がり、異国情緒あふれる風
景も楽しめます。



1:2025年4月に入港したパシフィック・ワールド号。2:香港と深圳をつなぐアーチ型の巨大な「深圳湾大橋」。3:海の安全を願う女神信仰の「天后博物館」。4:小皿料理をゆっくり味わう飲茶時間。

過去と未来が交差する 中国の最前線都市「深圳」

深圳は、高層ビルが建ち並ぶ中国の革新とスピードを象徴する、世界から注目を集める都市です。一方で、清代の風情が残る古城や信仰文化、華やかな民族芸術など、多層的な魅力にも出会えます。ハイテクと伝統のミックスを肌で感じてみてください。



中国



わしい風景が広がります。道往く車は電気自動車がメインで革新性やテクノロジーを随所に感じられます。Voyage 120でも参加者の皆さんに非常に好評を得た寄港地でした。近くにある「天后博物館」では海の女神・媽祖信仰にふれることができます。湾岸エリアの美しい「深圳湾大橋」からは対岸の香港も遠望でき、歴史と風景を同時に楽しめるエリアです。

民族衣装や伝統建築が再現されたテーマパーク「中国民俗文化村」では多彩な文化を体感できます。「深圳博物館」で都市の発展をたどる展示などを見学するのもよいでしょう。食事を楽しむなら繁華街・東門町へ。庶民的なレストランが並ぶこのエリアでは、点心や小籠包などの本格飲茶をカジュアルに楽しめます。お土産には、深圳発のガジェットや中国茶、伝統工芸品もおすすめです。

サファリと美しい海岸線をはじめとする 魅惑の港町「ポートエリザベス」

「南アフリカのフレンドリーシティ」として知られるポートエリザベス。雄大なサファリから、文化や歴史に触れる観光地、海沿いのリゾート感あふれるスポットまで楽しみが満載です。



南アフリカ共和国



ポートエリザベスで多くの観光客が楽しみにしているのは広大な保護区でのサファリ体験。象やキリン、ライオンなどアフリカ特有の動物たちが生息するエリアを探索するワクワク感は格別です。保護区では、四輪駆動車でのドライ

る灯台や歴史的なモニュメントが並ぶこの丘からは、ネルソン・マンデラ湾を一望に収められます。

またポートエリザベスは40キロにもおよぶ美しいビーチが広がるリゾート地でもあり、海辺の人気エリアであるボードウォークは、カフェやレストランに入ったりお土産を探したりするのに絶好です。水族館やエンターテイン

メント施設も充実しており、幅広い世代が満足できるアクティビティが揃っています。

街に戻ったら、歴史的な見どころが集まる「ドンキン保護区」を散策するのはいかがでしょう。街のシンボルであ



5



6

5:街のシンボルであり歴史的な見どころが集まる「ドンキン保護区」。6:洗練されたレジャー&リゾート施設の「ボードウォーク」。



様々な野生動物を見ることができるサファリ体験は人気の高いアクティビティ。



Port Elizabeth

手つかずの自然が残されたアフリカの大地で観察できる迫力ある象の姿。

歴史と自然、グルメが彩る島の旅

「テネリフェ島」



スペイン

スペイン領カナリア諸島のテネリフェ島は、スペインとアフリカ文化が融合するユニークな魅力を持つ島です。世界遺産の街並みや、壮大な火山風景、地元のグルメが訪れる人々を魅了します。



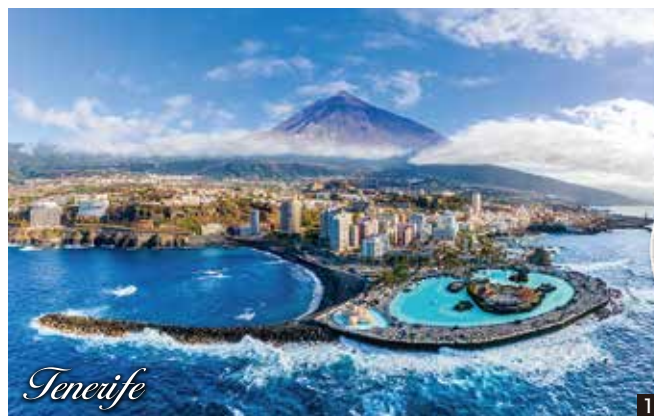
新鮮な焼きイカにサラダを添えたスペイン料理。

テネリフェ島は大西洋に浮かぶカナリア諸島最大の島。スペイン植民地時代の影響を色濃く残す歴史ある街並み、自然の絶景など多彩な魅力をもっています。まずは世界遺産のサン・クリストバル・デ・ラ・ラグーナ旧市街の石畳の通りを歩きながら、カラフルな建物や雑貨店を巡り、島の歴史に触れてみましょう。

自然を堪能するならティデ国立公園を訪れるのがお勧め。スペイン最高峰の火山の荒々しい景色が広がるこの公園にはロープウェイで山頂近くまでアクセスでき、島全体を見渡すパノラマ景色を体験できます。トレッキングも人気で、大自然のスケール感を実感できます。グルメを楽しむなら、カナリア諸島独自の味覚に注目。新鮮な魚介を使った料理やラム酒、さらにはフルーティーなカナリアワインといった地元の味を楽しんでください。



1: 大西洋に浮かぶ楽園、遥かにティデ山を望み海岸線が広がるテネリフェ島。
2: 歴史と文化の息づかいを感じるラ・ラグーナの街路。



カリブの楽園で過ごす極上のひととき

「モンテゴベイ」



ジャマイカ

モンテゴベイは、美しいビーチとカリブの豊かな文化が融合した魅力的なリゾート地。美しいビーチや歴史探訪、ユニークなアクティビティを通して、ジャマイカの真髄に触れましょう。



工芸品として販売されている手作りの木彫りラスタマンのお面。

透き通るターコイズブルーの海、白砂の海岸、心地の良いレゲエ音楽。まさにカリブの楽園を実感できるのがモンテゴベイです。ビーチでは、穏やかな波の中でのんびり過ごしたり、シュノーケリングで美しい海中世界を探索できます。マーサブレア川の筏下りでは、竹筏に揺られながら、手つかずの自然と熱帯の動植物を観察する癒しの時間を体験できます。歴史ある観光スポットも見逃しません。ローズホール・グレートハウスは、英国庭園や豪華なインテリアなど植民地時代の面影を残す邸宅です。地元の特産品やカリブ料理を楽しむなら、賑やかなクラフトマーケットやグロースター通りを訪れましょう。スパイスやハンドメイドの雑貨が揃い、旅の思い出にぴったりのお土産を見つけることができます。



7



8

6: 海水浴、日光浴、シュノーケリングなどビーチリゾートの楽しみ方は色々。7: 青い海と白い砂浜が広がる絶景のリゾート。8: 竹筏に揺られて楽しむリパークルーズ。



6

インド洋に浮かぶ美しい島国の首都

「ポートルイス」



モーリシャス

ポートルイスは、インド洋の楽園モーリシャスの玄関口であり首都。政治・経済の中心であると同時に、美しい自然と文化的な魅力が詰まった街です。



ヒンズー教の聖地でもある「グラン・バッサン」。

ポートルイスの魅力は、街の表情の豊かさにあります。多民族、多文化が融合し、街を歩けばヒンドゥー寺院の祈りの煙、モスクのミナレット、そしてヨーロッパ調の建物が調和しています。政府庁舎やセントルイス大聖堂などからは、植民地時代の面影が見てとれるでしょう。アーブラヴァシガートは、19世紀に契約移民労働者の受け入れ施設であった場所で、世界遺産に登録されています。ショッピングや食事場所を探すなら、トリアノン地区のトライベック・モールへ。200以上の店舗と40以上の飲食店があり、エンターテインメント施設も充実しています。少し足をのばして南西部にあるシャマレルへ向かえば、自然が生んだ奇跡である七色の大地や迫力満点のシャマレル滝など、圧倒的な自然と出会えます。

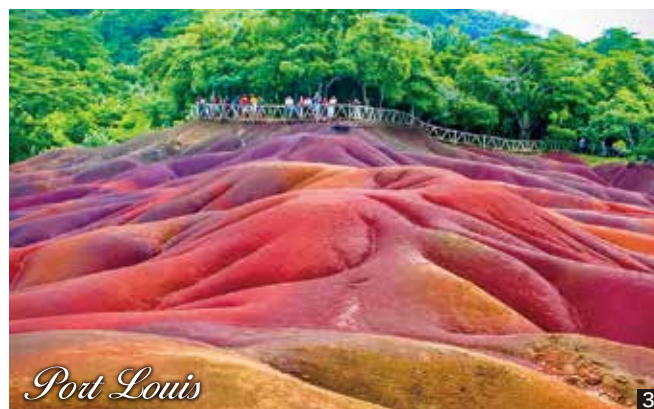


4



5

3: シャマレル山の鉱物が化学反応をおこして生まれた七色の大地。4: 空から望むポートルイス。海と山に囲まれ多文化が息づく街並み。5: モーリシャスの一大産業、サトウキビから砂糖をつくる工程などが分かる「砂糖博物館ラヴァンチュール・ド・シュクル」。



3

オーバーランドツアーで行く

大地を切り裂く、轟音のカーテン「ビクトリアの滝」



ザンビア



ジンバブエ

イギリスの探検家リヴィングストンが、その神々しさから女王の名にちなんで命名した「ビクトリアの滝」。現地では大自然への驚異から「雷鳴の轟く水煙」とも呼ばれています。幅約1.7km、落差約100mを流れ落ちる滝、その轟音は四方に響き渡り、巻き上がる水煙とともに見る者すべてを圧倒します。遊歩道からは複数の角度で滝を間近に眺めることができ、晴れた日には巨大な虹が

出現すること。雨季には最大で毎分5億リットルの水が流れ、まるで大地が息を吹き返すような迫力。滝と共に熱帯のジャングルを歩くひときは、まさにアフリカでしか味わえない体験です。



10



11



9

9: 滝のすぐそばを歩ける大迫力の遊歩道。10: 落差100メートルを流れ落ちる白い壁。11: 空から見ると大地を裂くように落ちる水の奔流。



高橋 和夫さん

TAKAHASHI Kazuo

(国際政治学者、放送大学名誉教授)

世界情勢をわかりやすい言葉で話してくれる国際政治学者で、解説者として数多くのテレビ番組に出演。また世界の複雑な問題を鋭く、かつ分かりやすく解説してくれる講座は、毎クルーズ人気が高い。著書に『モデルナとファイザー、またはバイオンテック』(GIEST)、『なぜガザは戦場となるのか』(ワニブックス)、『パレスチナ問題の展開』(左右社)、『アラブとイスラエル』(講談社新書)『イランとアメリカ、そしてイスラエル』(朝日新聞社、近刊予定)など。

高橋和夫の中東・イスラム・国際情報

<https://news.yahoo.co.jp/expert/authors/takahashikazuo>

X (旧ツイッター)

<https://twitter.com/kazuotakahashi>

YouTube チャンネル「高橋和夫&小沢知裕ルーム」

<https://www.youtube.com/@GIESTInstitute>

ピースボートの旅は、後からじっくりと効いてくる

ニュース番組からワイドショーまで数多くのテレビ番組に解説者として出演し、数々の著書も手掛けている高橋さん。8月出航のVoyage121にも乗船予定だが、今回はなんと、世界一周の全行程への参加を目指して現在調整中。水先案内人として幾度も乗船した経験から、ピースボートクルーズならではの魅力について綴った寄稿を、今回あらためて紹介します。



きっかけは、エリトリアだった。どこかで見かけたピースボートのポスターが、寄港地の二つに挙げていた。行ってみようと思った。というのはクウェートに留学中にアラビア語のクラスの同級生にセハイという名のエリトリア人がいたからだ。とても、いいやつだった。それでエリトリアという存在を知った。当時は、まだエチオピアの一部とされていて、エリトリアは国ではなかった。歴史を調べるとイタリアの植民地にされ、その後に支配者がイギリスに変わり、そしてエチオピアに併合されている。エリトリア人は、独立を求めた。エリトリアは、当時のエチオピアの海に面した部分であった。紅海を隔てサウジアラビアと向かい合っている。このエリトリアを失うとエチオピアは海への出口を失ってしまう。それがエチオピアが

エリトリアの独立を許さなかった大きな理由だった。だがエリトリア人は立ち上がり独立を求め戦った。女たちも銃を取った。そして長年の闘争を経て、1993年に独立を達成した。最初に講師として乗らないかとの打診を受けた時に、確認するとエリトリアに寄港することだった。それならばということで、講師として、つまり「水先案内人」として乗船した。インド洋を抜けて、ある朝に目覚めるとデッキの外にエリトリアのマッサワ港があった。ついにクウェートでの同級生の国にやってきた。

マッサワでは独立闘争の話を聞いた。現地のインジャラという食べ物をいただいたりした。インジャラは甘くないクレープのようなもので、野菜や肉などを包んで食べる。マッサワでは

気温が高いので腐らないように少し酸味を強くしているとのことだった。この都市の全体の印象は、何もない。暑さだった。そしてピンと背筋を伸ばした誇り高き人々がいた。

こうした観光地でない港を訪れるのが、ピースボートの面白さである。たとえばハイテク産業の中心として知られる深圳だ。寒村が突然に大都市になった。1990年代に、鉄道で隣の香港から訪れて、その変化の勢いを取材した。それから30年後、視野をおおうような巨大な都市の全体像を見ながら入港した。未来に待ち伏せされたような感覚に打たれた。あるいはニューヨークを船で訪れる経験も格別である。飛行機と船では、

感動の種類が違う。ゆっくりと船でマシハタン島に近づくと、自由の女神像が視界に入ってくる。最初はボンヤリと、そして鮮明に見えてくる。これが、ヨーロッパからの数多くの移民たちが最初に見た風景だ。『ゴッドファーザー』という映画の最初の場面のようにである。移民たちの感情を迫体験しているような気になる。大きな港に行くのも素敵だ。ピースボートの「普通のクルーズ」らしい部分は、素晴らしい。

しかし、ピースボートしか行かないような港の風景も捨てがたい。マッサワ以外の例を挙げるとモザンビークの首都マプトがある。モザンビークはアフリカの南東にある。南アフリカの北に位置しインド洋に面している。

ポルトガルから独立した国である。安土桃山時代にポルトガルの宣教師がモザンビーク出身の黒人を織田信長に「献上」したという記録が残っている。現地でツアーのバスに乗ると、ブラジルと同じような音楽が流れている。このノリからして、ポルトガル語圏に入ったのが耳から理解できる。ここでは、内戦で負傷した人たちの村を訪ねた。地雷で足を失った人々が暮らしている村だった。こうした場所も、普通のクルーズでは訪れないだろう。

何年か前に上海のホテルのロビーで隣り合わせた外国人の家族とおしゃべりをする機会があった。お父さんが、どこから来たのかと尋ねたので、日本だと答えた。こちらも相手の

出身地を問い返した。容貌からアフリカ系の家族だろうとは推察できた。英語からアメリカ人でないのも想像できた。だが、それ以上は、わからなかった。相手は、自分の国など知らなくて当然だ。知っているはずは絶対ない。というような風情で「エリトリア」と答えた。

「エリトリアのマッサワには、何回か行ったことがあるし、インジャラも食べたことがある。マッサワのインジャラは、酸っぱい」と言葉を続けると、その男の表情が笑顔に崩れた。相手は驚き喜んだ。中国でエリトリアに行ったことのある日本人に会うとは想像もしていなかったからだろう。マッサワの暑さを思い出した。ピースボートの旅は、何年後かに、じっくりと効いてくる。📌



4回目の世界一周も たっぷり楽しめました

昨年Voyage118に乗船された鍋田真弓さん。今回が4回目の世界一周の旅は申し込み後に航路変更となりましたが、「変更されたプランのなかで楽しもう」と考え、世界一周の旅を満喫しました。寄港地の思い出などについて話を伺いました。

鍋田真弓さん



鍋田さんは4回目の世界一周になるVoyage118に、出発前どのような期待を抱いていましたか。

大好きなアフリカにまた行けると、そしてオーロラを見ることをとても楽しみにしていましたが、この2つについては大満足の旅となりました。ポートエリザベスの「サファリツアー」、最高でした。実は思ったより寒かったんですけど多くの野生動物と出会えました。ケープタウンではタウンシップ・ランガ地区の交流ツアーに参加しました。これはかつての「黒人居住地」を訪ねるピースボートならではの貴重な機会になりました。オーロラは、もう期待以上でしたね。すごく長い時間、オーロラ観察ができましたが、神秘的な世界を体感した贅沢な体験でした。

出発前に航路変更の発表がありました。その点はどう受け止めたか。

何ごとも予定通りにいかないことはあるし、変更になったらなつたで、そのなかでどう楽しもうか考えたほうが良いと思いました。航路変更にな

クルーズディレクターが 「絶対、外せません」と推す オーロラ鑑賞



クルーズディレクター
椎名慈子 SHIINA Noriko



Q Voyage121のクルーズディレクターという立場から、観光スポットで見逃せないところはどこでしょうか。

外せないところはいくつもあります。個人的にナンバーワンはなんといってもオーロラです。天候に左右される、運任せなところもあるので見られ、運任せなところもあるのが見られ、光のない海の上で満天のオーロラが出現したときの驚き、圧倒される神秘

性に参加者の皆さまには絶対に体験してもらいたいと思います。本当に時間を忘れて、いつまでも見続けられる、自然の驚異です。

Q ご自身が体験したときはどのようなタイミングで出現しましたか。

オーロラは夜中に出ることが多いと聞いていましたが、19時くらいに出現しました。ちょうど食事どきだったので、皆さん慌ててデッキに出て、レスト

ランは空っぽになっていましたね。船上では「おーっ」とか「あーっ」とか歓声なのか悲鳴なのか、大声が上がっていました。気がつけば私も大きな声で叫んでいましたが（笑）。

Q いつ出現するかわからないオーロラを、どうやって待っているのですか。

デッキに出てもよいのですが、寒いからです。船内で待っているのがいいですね。オーロラ鑑賞区間では特別メニューの温かいドリンクもあります。オーロラが出現する場合は案内人からあらかじめ船内放送が入りますから、そこからデッキに出ていただくことをおすすめします。

Q オーロラ鑑賞の前にはさまざまな船内企画もあると聞いています。

オーロラ講座のほかは、クルーズによつて異なりますが、これまではオーロラファッションショー、オーロラの撮り方、ビンゴ大会、それに食事ではオーロラ御膳が提供されることもあります。今回も楽しい企画をたくさんご用意する予定です。



よつて加わった寄港地も素晴らしいかったですよ。たとえばラスバルマスでは一人で島内をバスで巡つたのですが、市場に行ったり本場のイベリコ豚を堪能したりして満喫しました。ポルトについては下調べせずに行きましたが、街並みがとても綺麗でした。リバプールはビートルズファンには堪りませんね。現地でギター片手にずっとビートルズナンバーを歌っている男性がいました。サモアのアピアでは自立を目指す女性たちと会うツアーに参加し、大歓迎を受けました。思い出は話し出したらキリがありません。予定が変わっても素晴らしい旅であることに変わりはありません。

Q ポジティブな考え方、素晴らしいですね。

以前、世界遺産検定マイスターであり水先案内人でもある片岡英夫さんに言われたことがあります。「世界周の旅には環境、金、健康、国際情勢、機会、気持ちの「6K」



Q 2025年はオーロラの当たり年ですか。

その通りです。今年は太陽活動11年周期のなかでも、もつとも活発になる年なので、鮮やかなオーロラが発生しやすくなります。アイスランドでも9月に入ると非常に高い確率で観測できるでしょう。一年前のクルーズ「Voyage118」でのオーロラもすごかったですが、それ以上のものが期待できます。なので今年を逃すのはもったいないと思いますよ。



2024年Voyage118の船上で撮影したオーロラ。

が揃わないと出かけられないんだ。だから参加できるタイミングはとても貴重でフルに活用すべきこと」だと。すごく共感しました。だからまず乗船できることに感謝しましたね。実はこれで最後にするつもりでしたが、Voyage126にも予約を入れているんです（笑）。

Q そこまで鍋田さんを惹き付けるものは何でしょうか。

寄港地も素晴らしいですが、船内の自主企画やイベントが魅力です。前回は航路変更で洋上が長くなったため、その機会がすごく多かったんですが、どれも参加し楽しめました。あとは船内の色々な方との出会い、これもピースボートならではのですね。